

## 巻頭言

# 新しい時代へ向かうメディアセンターの役割： グローバル知的社会への貢献

まえだ よしあき  
前田 吉昭

(理工学メディアセンター所長)



平成23年4月より理工学メディアセンター所長を仰せつかりました。前任の椎木一夫先生をはじめ、歴代所長の献身的なご努力によって育てあげられてきた理工学メディアセンターを、次の時代へ受け渡せることが少しでもできればと思っています。

学術文献や資料、さらには図書までもが電子化されるようになってきた今日、メディアセンターの役割は急激な変化を迎えています。理工学の研究や教育では、最新研究情報をできるだけ早く入手する必要があります。さらには、多分野にわたる膨大な情報の提供も求められています。学術文献の電子化は、ユーザー側である研究者や学生の方々にとっては、研究室や自宅で必要な資料をオンラインで即時に入手でき、大変便利になったといえます。実際、理工学メディアセンターを直接訪れ、そこで資料を探し、コピー等を取るといような以前では当たり前の利用スタイルを全く見なくなりました。「図書館」の機能は研究資料や図書の保存と管理という時代から、まったく新しい概念へと変化しています。

デジタル時代が私たちの生活を大きく変えてきたなかで、「図書館」のあるべき役割を今後検討していく必要があると思っています。特に、理工学メディアセンターが今後担う役割として重要となってくるのは、グローバル知的社会のなかでの教育と研究の支援体制の構築ではないかと思います。理工学メディアセンターでは、これをテーマにして、今年4月にパネル討論会を開催しました。「図書館」機能として、教育や研究を支援する学術図書や学術文献の受け入れや管理という、メディアセンター本来の担う責務からみると、このような議論を理工学メディアセンターへ持ち込むのは、やや逸脱している感もあるとお考えの方もおいでかもしれませんが、理工学メディアセンターが果たすべき究極の役割は、理

工学の教育と研究への支援を「メディア」という立場からどこまで行っていくかを考えていくことではないかと思っています。このパネル討論会は、できれば半年に一度程度開催して、理工学部および理工学研究科の学生や研究者の方々からのお考えやご要望をいただき、理工学部および理工学研究科の将来計画に貢献できる役割を具体的に実行できることを目指していきたいと考えております。

理工学メディアセンターでは、私が考える以前から、当然のように、今後の役割について中長期計画として、多くの検討がなされており、またそれを実行してきています。私の仕事は、これらの計画が実行されるよう見守ることだと思っています。特に、この数年間で理工学メディアセンター内のスペースの整備が行われてきました。それによりグループ学習室や個人用ブースの設置、自習室の夜間・日曜開室等、利用者ニーズへの対応も進んできています。

前任の椎木一夫先生が理工学メディアセンターと学生部とで共同して始められた未来先端基金によるS-Circleという事業があります。これは、修士課程の学生を中心としたスタッフが、理工学メディアセンター内の学習スペースを利用して、学生からの様々な相談を受けるというものです。今年で3年目を迎えますが、相談件数も年々増加し、存在価値の高いものになってきていると思えます。人と人との交流の場の提供も重要な役割の一つだと思っています。

着任してまだ3か月程度の右も左もわからない状況で、理工学メディアセンターのスタッフの方々とお話をしてみると、どの方も大変有能でまたメディアセンターに対する愛着や情熱を強く感じることができます。また、大変楽しい職場です。ぜひこの皆様のご協力のもとで、理工学メディアセンターをさらに進化させていきたいと思っています。